

WORKDAY関数

2つの日付の間の就業（稼働）日数を返します。

◇機能

2つの日付の間の就業（稼働）日数を計算する機能です。

◇構文

WORKDAY(開始日,終了日,"休日の曜日指定","休日の日付指定")

引数	入力内容
1 開始日	就業日の計算対象期間の開始日です。 開始日は期間内に含まれます。 `YYYYMMDD`の形式で指定します。 時刻型を含むフィールドが選択された場合、時刻型部分は無視されます。
2 終了日	就業日の計算対象期間の終了日です。 終了日は期間内に含まれます。 `YYYYMMDD`の形式で指定します。 時刻型を含むフィールドが選択された場合、時刻型部分は無視されます。
3 休日の曜日指定	計算から除外する曜日を指定します。 数値のみ入力可能です。 1~7の値をカンマ(,)区切りで指定して、曜日を選択します。 日曜：1、月曜：2、火曜：3、水曜：4、木曜：5、金曜：6、土曜：7
4 休日の日付指定	週末または休日に当たる日付を除外指定することができます。 `YYYYMMDD`の形式で指定します。 カンマ(,)区切りで記入することで複数の日付を指定することが可能です。 「休日の日付指定」で指定した日付が「休日の曜日指定」の曜日の日付であった場合、「休日の日付指定」で指定した日付は無視されます。

WORKDAY

WORKDAY(開始日, 終了日)

開始日 就業日の計算対象期間の開始日。開始日は期間内に含まれます。
`YYYYMMDD`の形式で指定します。

終了日 就業日の計算対象期間の終了日。終了日は期間内に含まれます。
`YYYYMMDD`の形式で指定します。

休日の曜日指定 週末または休日に当たるため、計算から除外する曜日を指定します。
数値のみ入力可能です。

休日の日付指定 週末または休日に当たる日付を除外指定することができます。
`YYYYMMDD`の形式で指定します。

T2 2つの日付の間の就業（稼働）日数を返します。返す値は数値型となります。
入力可能な日付型の書式は、`YYYYMMDD`のみとなります。時刻型を含むフィールドが選択された場合、時刻型部分は無視されます。

- 「休日の曜日指定」は、週末または休日に当たるため、計算から除外する曜日を指定します。複数指定可能です。
曜日に対応した数字(1~7)を入力して、曜日を指定します。
日曜：1、月曜：2、火曜：3、水曜：4、木曜：5、金曜：6、土曜：7
- 「休日の日付指定」は、週末または休日に当たる日付を除外指定することができます。
`YYYYMMDD`の形式で指定し、カンマ(,)区切りで複数の日付を指定することが可能です。
「休日の日付指定」で指定した日付が「休日の曜日指定」の曜日の日付であった場合、休日の日付指定で指定した日付は無視されます。

OK キャンセル

◇戻り値のデータ型

数値型（整数）

◇処理の例

2024年9月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

例	式	戻り値
2つの日付の間の就業 （稼働）日数を返します。	WORKDAY(`20240901`, `20240930`, "1,7")	21
	WORKDAY(`20240901`, `20240930`, "1,7", "`20240916`, `20240923`")	19
	WORKDAY(`20240901 t12:12:12`, `20240930`, "1,7", "`20240916 t12:12:12`, `20240923`")	19
	WORKDAY(`20240901`, `20240830`, "1,7")	-1